

この連載でも取りあげてきたテーマですが、『コロナとがん―リスクが見えない日本人』（海竜社）を出版します。そろそろ書店の店頭に並ぶ頃だと思えます。この感染症を軽視するつもりはありませんが、26日午後8時現在の死亡数が1727人。インフルエンザなどは減っており、死亡数全体では、平年よりむしろ少なくなっています。

一方、年間38万人の命を奪うがんは、在宅勤務による座る時間の増加や検診の「自粛」などによって、さらに増えるおそれがあります。夏ごろから増え始めた自殺も経済の悪化とともに激増する可能性があります。正直、アンバランスな印象を拭きません。

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

は「唯一」のリスクとなりますから、マスクもそればかり取りあげます。世の中にはコロナ以外にリスクは存在しないかのようなムードが醸成されてしまいました。

原発事故のときも、ごく少ない被曝を恐れるあまり、大規模な避難が長期化しました。福島での被曝量はわずかで、がんが増えることは考え

今回の新刊では、台湾から

がん治療のために通院している患者さんやイタリアから一時帰国したまま足止めされているヤマザキマリさんとも対談しています。本書でも取りあげていますが、コロナの拡大の背景にはEU統合に伴う副作用や格差問題など、普段のみに出ない各国の泣きどころが露呈したと思います。

日本はアジアのなかでは優等生とは言えませんが、欧米などと比べれば、コロナによる被害は軽い方です。社会の凍結やがんの激増が起これば、まさにやりきれません。

在宅勤務のイスから立ち上がることを怠らないことが大切です。

（東京大学病院准教授）

## コロナ以外のリスクに目を

一連のコロナ騒動を受けて私の脳裏をよぎったのは、「福島第一原発事故後の状況によく似ている」ということです。

社会の関心が新型コロナウィルスにだけ集まり、マスクの

買い占めなどが起こった事態は、わずかな被曝（ひばく）を過度に恐れて右往左往した

「ゼロリスク社会」では、目の前に現れた新しいリスク

られません。一方、生活習慣の悪化などから、がんを含めた病気のリスクが高くなっています。福島で自殺が増えたのも、コロナ禍と似て

います。